

Zoom Up

ズームアップ

## 女性が働きやすい 物流現場へ

ダイワコーポレーション

河野伶奈さん



ダイワコーポレーション（本社・東京都品川区、曾根和光社長）は、女性でも働きやすい労働環境の構築に向け、現場改善を積極的に推進している。その中で、同社の女性社員で庫内業務に従事する河野伶奈さんは、現場改善施策として女性用ヘルメットを提案し、多くの営業所で導入された。物流業界の人手不足により、女性の進出がより一層期待される中、倉庫現場の最前線で活躍する河野さんに、仕事の魅力や女性視点から見た業界の課題を聞いた。

次の作業工程を考え、  
工夫を凝らす

新卒でダイワコーポレーションに入社し、今年で5年目。入社前は、倉庫業に対してネガティブなイメージがあったが、営

業所見学や先輩社員らの話を聞き、倉庫業のイメージが変わった。「女性の先輩社員が現場でバリバリ働いている様子を見て、カッコいいと思った」として、現場で働くことに魅力を感じた。

入社後は「川崎営業所」に配属され、それ以降、一貫して庫内業務に従事。現在は、同営業所近くに新設した「ロジポート川崎営業所」に職場を移し、主にゲームセンターの景品などアミューズメント商品を担当している。実際に倉庫現場を経験し、「単純作業と思っていた仕事だが、様々な工夫が必要で、そこが面白いと思った」とし、日々の業務では「ひとつの作業自体は手間がかかっても、その次の工程を担う人が少しでもやりやすいよう努めている。そのような細かな気づきは女性ならではだと感じている」と話す。

### 女性目線での現場改善を

一方、これまで倉庫現場は男性の職場とされてきた中、苦勞したことも多かった。河野さんが「川崎営業所」に配属された当時は、女性の現場作業員が他

にいなかったため、ヘルメットや作業着などの支給品は男性サイズ。「体調など女性ならではの悩みも相談することが難しかった」という。

その中で、倉庫現場で働く女性が増えたことから、昨年9月に女性用ヘルメットの導入を提案。従来のヘルメットは女性に被るにはサイズが大きく、あご紐を最大に締めた場合でも頭を下げた際に前方に落ち、視界を遮っていた。また、髪の結び玉がヘルメット内に入らないため、夏場でも髪を下ろした状態で業務を行っていた。現在のヘルメットは従来の強度を保ちつつ、軽量化されているほか、後頭部のくぼみにより、髪を結ぶことが可能。導入前のヒアリング調査では、男性社員からも「実は重くて肩が凝っていた」という意見が寄せられ、軽量化したヘルメットを導入。男性社員からも好評だという。

「男性はきつくても我慢するという美学がある中、女性が先に声を上げたことで、現場の改善につながることができた。比較的力が弱い男性もいれば強い女性もいるため、女性優先ではなく、会社全体のために、現場



倉庫現場の最前線で活躍



女性ならではの気づきが強み



導入された女性用ヘルメット

改善につながる提案を継続していきたい」と話す。現在は作業着の生地が冷たく感じることから、温かいフリースやスウェットなどの導入の提案を進めている。

### 倉庫現場の人手不足解消は「現場改善と発信」が重要

ダイワコーポレーションの倉庫現場では、多くの若手や女性社員の登用が進んでいるものの、多くの物流会社では高齢化や人手不足が顕在化している。河野さんによると、「課題解決には現場改善とその発信が重要」という。

ダイワコーポレーションでは、入社3年目までの若手社員が主体となり、採用活動に携わ

るプロジェクト「和く和くプロジェクト」を発足し、学生などに会社の雰囲気や倉庫業の魅力などを発信している。河野さんもこのプロジェクトに参画し、「活動を通じて、倉庫業に対するネガティブなイメージは格段に減っている」と感じた。

現在は「和く和くプロジェクト」を卒業した河野さんだが、今後は「実際に仕事を体験してみないとわからないことも多いため、私たちの年代が、入社した若手社員のケアを行うような取り組みを作っていきたい」と抱負を述べる。

### 同業他社の女性社員との交流を期待

さらなる現場改善の実現を目指す、社内の別の営業所や同業他社の倉庫現場で働く女性社員と意見交流会を実施したいという河野さん。「長く同じ現場、業務を続けると考え方が偏り、新たな改善案を考案することが難しくなってくる」と話す。

社内では、入社3年目までの若手を対象とした研修や社員旅行等のイベントはあるものの、公式な意見交流の場や女性を対象とした会合などは設けていな

い。また、周りも女性で倉庫現場に従事する友人などがないため、「自分が所属する現場の女性同士で意見を交換する狭い世界になっている。社内だけではなく、社外の女性とも話すことで、倉庫業界全体が何か大きく変われると感じている」と期待する。

今後の目標については、「これからキャリアを重ね、いずれは現場の複数のチームを管理する立場になりたい。将来的には、社内の別の営業所で所長代理を務める女性先輩社員のような姿を目指している」とし、「女性はいずれ結婚や出産等で現場を離れる場合が多いが、子育てなどライフイベントと共存し、現場の業務に従事していきたい」と語る。



若手女性社員のケアも